

非稼働病棟を有する医療機関

資料2

医療機関名	所在地	病床数	病棟名	令和6年7月1日現在の医療機能						非稼働の理由	今後の予定
				高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	計		
新城市作手診療所	新城市作手高里字縄手上10番地1	2床	—	0床	0床	2床	0床	0床	2床	消防広域化による救急搬送の迅速化及び市町村合併に伴う新城市市民病院との連携強化により、病床稼働の必要性が薄らいだと考えられるため。	近年高まる南海トラフ等巨大地震等の災害時に急増する患者に対する備えとして、非稼働病棟を確保しておくことは、地域の医療体制を強化するうえで有効であり、合理的であると考え、防災上の必要性の有無も検証したうえで、将来的には廃止を視野に検討していく。
新城市市民病院	新城市字北畑32番地1	26床	6階病棟	0床	114床	59床	0床	26床	199床	回復期リハビリ病棟としての運用を考えているが、医師・看護師等の医療従事者不足等により、休床・非稼働病棟となっている。	今年度スタートした新城市市民病院経営強化プランでは常勤看護師の確保に取り組み、令和9年度に回復期機能の病床の稼働再開を目指すこととしている。 また、施設の老朽化に伴い現在、病院再整備を検討しており、あり方検討会で再整備の手法を議論しその報告書を取りまとめ、その報告書に対するパブリックコメントを実施するとともに、新城市医師会、北設楽郡医師会、新城歯科医師会、新城市薬剤師会、代表区長等からの意見聴取を行い、総合的に判断し、再整備手法は移転新築案とすることを昨年11月に決定した。 今年度末頃に着手予定の新病院建設基本構想・基本計画において、患者数推移や病床稼働率等から議論される病床規模と併せて、非稼働病棟の解消に取り組んでいく予定である。